

CAB CLONE™

取扱説明書



安全のための注意事項:

- ・ この取扱説明書をよくお読み下さい。
- ・ この取扱説明書に記載してある事柄を順守して下さい。
- ・ 警告事項には十分注意して下さい。
- ・ 取扱説明書の指示に従って下さい。
- ・ この製品を水の近くで使用しないで下さい。
- ・ この製品を拭くときは乾いた布を使用して下さい。

CAB CLONE™ 取扱説明書 & 操作ガイド

この度は本製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。そしてMESA®ファミリーへようこそ!優れた品質の高い製品を作り出し顧客のニーズに対応するべく、我々はアメリカはカリフォルニア州にあるPetaluma(ペタルマ)の唯一の工場の一つ一つ同じ情熱をもって製品を完成させています。また、あなたが選ばれたこのCAB CLONE™は、ハンドビルドの高級アンプに携わっている、全く同じ人間の手によって生産されているのです。

概要

CAB CLONE™は、パッシブのキャビネットシミュレーター/スピーカー(+マイク)で、ギターアンプに接続してさまざまな用途に使用できます。例えば、ギターアンプのスピーカーアウトの直接のインターフェースとして、ミキシングコンソールやマイク・プリアンプ、または直接コンバーター(レコーダー)に接続することができます。または、ヘッドフォン用に最適化されたヘッドフォン・ドライバーとして素晴らしいサウンドとフィーリングを持ったまま「ヘッドホン・フレンドリー」な音量を出力し、深夜の自宅練習や無音状態での演奏に使用することも可能です。

インターナル・ロード(内部抵抗)は無効にすることもできるので、アンプからのダイレクト信号をスピーカーに出力することができます。スピーカー使用時(THRUジャックにスピーカーが接続されている際は、トップエンドのサウンドに少し力強

さが加わります。スピーカーが未接続のときには、インターナルロードは(インピーダンスが固定でフリーケンシーも変化しないので)とても良いアンプのフィーリングを生み出します(標準で100W @ 8Ω)。CAB CLONEは、アンプが100Wもしくはそれ以下の出力で、インピーダンスが8Ωで接続される状態を想定してデザインされています。また、4Ω/16Ωバージョンもラインナップしていますので、MESAまたは違うブランドのアンプでも正しいインピーダンス・マッチングが得られます。インターナルロードを使用する場合は、録音機器として無音状態で使用することも可能です。

フロントパネルには、D.I.(アウトプット)LEVELコントロールが配置され、MIC(-30dB)、INSTRUMENT/LINE(-10dB)、そしてプロLINE(+4dB)まであらゆるレンジの出力レベルが選択可能です。このコントロールは、あらゆるモニタリングまたはレコーディング環境で、信号強度を視認しながらの微調整が可能となっています。

PHASE切替スイッチは、レコーディングまたはライブ環境において、CAB CLONEの信号と他の機材からの信号をミックスする際にフェイズ(位相)を180度反転させることが出来ます。

同じくフロントパネルにあるGROUND/LIFTスイッチは、CAB CLONEのXLRバランスダイレクトアウトジャックの1ピン(グラウンド)を回路とシャーシグラウンドから切り離します。独自のグラウンドを持つミキシングコンソール等に接続する場合の無用なグラウンドループ(ノイズ)は、大抵の場合このスイッチで取り除くことが出来ます。

フロントパネルの一番右端のVOICING(ボイシング)スイッチは、スピーカーシミュレーターにおいて標準的な3つのキャビネットスタイルの切替が可能です。スイッチ上側はCLOSED BACK(クローズドバック)で、ミッドレンジ(中域)をカットし高域のハーモニクスが豊かになります。30Wスピーカーを搭載したヴィンテージのプリティッシュ4x12キャビネットをシミュレートしており、ヘヴィに歪んだリズムサウンドまたはソロ等に最適です。真ん中のOPEN BACK(オープンバック)は、より高域のハーモニクスが輝き、トップエンドにアクセントを置いたオープンで立体的なサウンドが得られます。このスタイルはブライトでレスポンスの早いクリーンサウンドやオーバードライブの掛かったリズムサウンドに最適です。スイッチ下側のVINTAGE CABINET(ヴィンテージキャビネット)は、最もダークで、最もコンプレッションの掛かったサウンドで、特にハイゲインの単音ソロにマッチします。また、このスタイルではソロの音が太く丸くなります。

これら3つのボイシングによって、CAB CLONEはどんなサウンドスタイルにもマッチしたレスポンスが得られます。ご注意くださいなのは、THRUジャックにスピーカーを接続すると、これらのボイシングサウンドにも何らかの影響を及ぼすことがあるということです。接続するスピーカーの性格にもよりますが、可能性としてはよりレスポンスがダイナミックに敏感

になり、またサウンドがブライต์になります。CAB CLONEは、フロントパネルの操作がシンプルかつベーシックでありながら、手間や時間を掛けずに、余分なノイズを避けつつ、ギターアンプのサウンドをダイレクトにコンソールに接続することができる非常に便利な製品です。

リアパネルの一番左端のINPUT(インプット)ジャックと、お持ちのギターアンプのスピーカーアウトプットジャックを1/4"標準プラグのスピーカーケーブルで接続します。標準的な8Ω仕様のCAB CLONEは、ほとんどのインピーダンス負荷に対応しますが、より優れたサウンドと、インピーダンスのミスマッチによるアンプのアウトプットトランス(変圧器)へのダメージを避けるために、アンプの出力インピーダンスとCAB CLONEのインピーダンスは常に同じにすることを勧めいたします。リアパネルの中央下辺りにプリントされた3つのボックスのどれかに製品のインピーダンス値のチェックが入っているので、使用するアンプの出力インピーダンスとマッチしているかをご確認下さい。正しいマッチングにより、ベストなサウンドが得られ、また真空管の寿命も長くなりアウトプットトランスにダメージを与えることもありません。

INPUTジャック右側のTHRU(スルー)ジャックは、ダイレクトアウトジャックの信号をコンソールに送りつつ、同時にCAB CLONEの回路をスルーしたサウンドを直接スピーカーに出力することが出来ます。このジャックを使用することで、例えば、スピーカーのマイキングも行い、CAB CLONEのバランス・ダイレクトアウトのみ、またはスピーカーをマイキングしたサウンドの両方をミックスの際にブレンドすることも可能となります。ジャックはスイッチングタイプとなっており、1/4"フォンプラグのスピーカーケーブルを接続すると、自動的にインターナルロードが無効になり、スピーカーキャビネットのインピーダンス負荷がそのままアンプに掛かります。THRUジャックにスピーカーを接続すると、DIRECT OUTからの信号とは異なるサウンドとなります(レスポンスのキャラクターの違いや使用するスピーカーの特性によるものです)。THRUジャックに何も接続されていない場合は、どんなにサウンドやフィーリングが良くても、“リアクティブ”・ロード(スピーカー)のような変化は得られません。リアクティブ”・ロード(スピーカー)による複雑なレスポンス・カーブをシミュレートするのは大変難しく、そのサウンドを正確に再現することは出来ません。CAB CLONEに対して、多くの有名アーティストやプロデューサーが生み出すような素晴らしいサウンドとフィーリングを期待していることと思います。THRUジャックは、その時々々の音楽環境において、よりベストなサウンドが得られるような柔軟性を追加するものとお考えください。

リアパネルの中央の3ピンオス型のXLRバランスタイプのDIRECT OUTジャックは、ミキシングコンソールやプリアンプ、コンバーター等に接続し、スタジオやライブハウスでの録音の際に使用できます。またTHRUジャックにスピーカーを接続するかどうかによりますが、(外側は)無音状態で素晴らしいサウンドが得られます! シグナルレベル(音量)はフロントパネルのD.I.LEVELの設定によって決定されますが、-30dBのマイクレベルから+4dBのプロLINEレベルまで、あらゆるレンジの入力レベルが選択可能です。

1/4"フォンプラグタイプのLINE OUT(ラインアウト)ジャックからは、アンプのスピーカーアウトから出力される信号がそのまま出力され、SLAVE(スレイブ)信号を作成したり、コンソールやレコーダーに直接信号を供給することができます。またここからの信号はプロLINEレベルの+4dBの信号強度となり、フロントパネルのD.I.LEVELコントロールの影響は受けません。

最後に紹介するのは、とりわけ大事なCAB CLONEの最も素晴らしい機能、HEADPHONES(ヘッドフォン)アウトです。バランス・ダイレクトアウトから出力される素晴らしいフィーリングのサウンドが、お手持ちのアンプを接続することによって独り占め出来るのです。皆が寝静まった深夜に、美しい真空管のトーンや弾むようなフィーリングはそのままに、遂に真空管アンプをサイレント(無音)モードで演奏することが出来るようになりました。アンプのループにディレイやリバースをいくつか加えれば、もう何時間でも至福の時を過ごせることでしょう。

サイレント・ダイレクトレコーディングをするにしても、ミキシングコンソールに信号を送って、マイキングしたスピーカーサウンドを後でミックスするにしても、ヘッドホンアウトを使用して個人的に楽しむにしても、CAB CLONEはあらゆるギタリストが素晴らしいサウンドとフィーリングを簡単かつすぐに手に入れられるツールです。

フロントパネル

D.I.LEVELコントロール センタークリックのあるこのロータリースイッチは、出力信号のレベル(音量)またリアパネルのXLRバランスダイレクトアウトの信号強度を決定します。

このコントロールを反時計回り一杯(7時の位置)に回しきると、最小のMICレベルとなり、多くの著名なカーディオイド指向のマイクとよく似た強度になります。このセッティング時は、コンソールのPADをONにする必要はなく、スピーカーキャビネットにマイキングしているのと似たような、入力を微調整したようなレベルです。MICレベルセッティング時は、アンプの出力信号を約-30dBの信号強度に設定します。信号レベルは使用するアンプのマスターボリュームの設定に左右されますので、最初はコンソールのフェーダーをゼロの位置からスタートし、徐々にお好みのレベルになるように調整します。

センタークリックのある12時の位置はINSTRUMENT(楽器)/LINEレベルの出力信号となり、レベルが-10dBの強度となります。このレンジはホームレコーディング等には最適なレベルとなり、必要に応じて幅広く調整するための余裕があります。コントロールを時計回り一杯に回しきるとプロLINEレベルの信号となり、業界標準の+4dBの信号強度となります。この高めめのレンジは、プロレベルのコンソールやマイク・プリアンプまたはそれらをバイパスしてA/Dコンバーターに直接供給

するのに十分な信号強度となります。これにより、エンジニアはアンプのサウンドをダイレクトにとらえ、シグナルパスの中でサウンドに変化をつけることができます。

このように3つの段階に分けて出力レベルを細かく設定することによって、単純にコントロールを回しながら適切な設定を確認出来ます。また、2つか3つの設定のボタン型スイッチで切り替えるよりも、より微調整が可能となります。この機能性が追加されたことによりCAB CLONEは少ししかコントロールノブのないヴィンテージアンプから、マスターボリューム付かつ複数のチャンネル/プリアンプステージを搭載したモダンアンプまで柔軟に対応することができます。

PHASE(フェイズ)/180 この2点式のミニトグルスイッチは、リアパネルのバランスダイレクトアウト信号のフェイズ(位相)を180度反転させることができます。この機能を、他の信号とのマッチングを良くするために使用したり(同じアンプからの信号でも、マイキングしたスピーカーからの出力である場合)、サウンドミックス時にEQの問題で生じた位相を改善するために使用したりと、より良いトーンを得るために色々な使い方がこのスイッチには存在します。

2つまたはそれ以上の異なる位相の信号同士は、ある周波数帯(特にローエンドのレスポンス)がキャンセルされるイコライジングの変化を発生させます。このスイッチを操作することによって、CAB CLONEからの信号と他の音源からの信号を同期させ、一つまたは別々のアンプからの信号をミックスする際に可能な限り最適なコンビネーションが得られるようになります。

位相は、プレイヤーと音源の相対的なポジショニングにも関連しており、また音源の周りにも多くの位相が存在しますが、位相を180度反転することによって、位相の不一致による悪影響を取り除くことができる場合もあります。CAB CLONEはパッシブ(ノンアクティブ/電源を必要としない)であり、あくまで機能上限定的に位相を調整することは可能ではありませんが、このスイッチはあくまでトーンが正常になるようにする目的のものです。

GROUND/LIFT(グラウンド/リフト) このスイッチは、CAB CLONEのバランスダイレクトアウトジャックのXLRの1ピン(グラウンド)を回路とシャーシグラウンドから切り離します。これによって大抵の場合は、グラウンドループによって発生するハムノイズを取り除くことができます。無音状態でのレコーディング環境ではほんの少しのノイズも目立ってしまい、特にグラウンドループノイズがハムや“バス”ノイズを引き起こす最も一般的かつ悩ましい原因となります。必ず解消されるというわけではありませんが、ノイズ除去については効果的です。

ほとんどの場合、同じシグナルチェーンにおいてはアースを一箇所で行うのが理想的です。グラウンドループ(ノイズ)は、シグナルパスにある一つまたはそれ以上の機器が異なるグラウンド(アース)を持つときに発生します。このスイッチを下側

(グラウンド)にすると、CAB CLONEの回路とシャーシグラウンドが、XLRバランスダイレクトアウトジャックの1ピンのアイソレート・トランスに接続された状態になります。また上側(LIFT)にすると、CAB CLONEの回路とシャーシグラウンドを、XLRバランスダイレクトアウトジャックの1ピンのアイソレート・トランスから切り離れた状態になります。

グラウンド/リフト機能は、ライブのときの複雑なギター機材や、スタジオ環境のようなそれぞれが独自のグラウンドを持つ多くのプロセッサが接続されている状態において、グラウンドノイズを回避するひとつの手段として役立ちます。そして、少なくともCAB CLONEの回路とシャーシグラウンドにおいては、確実にグラウンドループ(ノイズ)のない状態を作り出すことが可能となります。

VOICING(ボイシング)スイッチ CAB CLONEの3つのクラシックなボイシングは、MESA/BOOGIEが過去45年間にわたって世界有数のトップメーカーと共にカスタムスピーカーを製作したり、それらを搭載するスピーカーキャビネットをデザインする中で培ってきた経験を基に作られたものです。この“バーチャルキャビネット”オプションにより、様々なキャビネットスタイルやゲインの設定、あるいはギターやピックアップに合わせたEQレスポンスの調整が可能となります。ブライトでオープン、そして高域が強調された、研ぎ澄まされたクリーンサウンドから、よりコンプレッションが掛かり高域のハーモニクスを抑えた、ウォームで歌うようなシングルノートサウンドまで、様々なボイシングを選ぶことができます。

CLOSED BACK(クローズドバック)は、MESA Recto Traditional Cabinetのような、60Wスピーカーを搭載したブリティッシュスタイルの4x12クローズドバックキャビネットのレスポンスをシミュレートしています。ミッドレンジ(中域)をカットしつつ高域をほぼそのまま残すことにより、非常に広がりのあるサウンドを再現します。どっしりとした低域やヴィンテージを彷彿とさせるスムーズなリードサウンドが必要なとき、オーバードライブやクランチのリズムワークをより際立たせます。CAB CLONEでハイゲインサウンドを鳴らすとき、特にTHRUジャックを通してライブスピーカーとCAB CLONEのダイレクトサウンドを合わせて使うときには、まずCLOSED BACKを試してください。太く整ったレスポンスにより、より強調された高域とリアクティブロード(スピーカー)が与える効果がほどよいバランスのサウンドとなります。

OPEN BACK(オープンバック)は、ミッドレンジを残しつつ高域のハーモニクスを強調した、オープンでチャイムのようなサウンドを再現しています。この設定は、クリーンなリズムギターやダイナミックなクリーンサウンド、あるいはマイルドに歪んだソコなどに最適です。特にコードを弾く際、ハイゲインにおけるアタックが強調されます。しかし、このモードではノイズに注意が必要です。マッチングの良くないアンプやギター、あるいはピックアップで使用すると、強調された高域が瞬時に分離し、ひどいサウンドになってしまいます。OPEN BACKセッティングの際には、ハイゲインにおけるトレブルやブレ

ゼンスの調整には特に注意を払ってください。

VINTAGE CABINET(ヴィンテージキャビネット)は、高域のハーモニクスを抑え、コンプレッションが掛かったウォームで丸いサウンドを再現しています。これは、クリーンなジャズサウンドや、ブルースやロックのソロ、特にフュージョンやロック、メタルなどのハイゲインなソロに最適です。このモードではアンプ側のコントロールがより自由になるので、トレブルやプレゼンス(MESAアンプではグラフィックEQの右側2個のスライダー)を幅広く調整し、高音域を強調したりカットしたりすることが可能です。

これら3つのボイスングスタイルによって、CAB CLONEではどんなサウンドスタイルにもマッチしたレスポンスを得ることが可能です。既に概要でも記載しましたが、THRUジャックにスピーカーを接続した場合には、これらのボイスングサウンドに影響があるということをご理解下さい。スピーカー固有のEQや感度などのキャラクターにもよりますが、ライブスピーカーを使うと、より反応が早く瞬間的なレスポンスを得ることができ、よりブライトなサウンドになります。

リアパネル

IN (FROM AMP SPKR. OUT) CAB CLONEのメイン・インプットで、ロードボックスとキャビネットシミュレーターの間回路にアクセスします。内蔵のロードボックスの実効値は100W RMSで、標準のインピーダンス負荷は8Ωです。

アンプのスピーカーアウトプット(4Ω、8Ω、16Ω)から、インピーダンス負荷のマッチしたCAB CLONEのIN(イン)に接続することにより、アンプのサウンドをダイレクトに得ることができます。あとはスピーカーを接続してモニター用にするか、あるいはバランスダイレクトアウトのシグナルにマイクで拾ったスピーカーのサウンドをコンソールで加えるかを定めるだけです。スピーカーを接続する場合は、次のTHRU(スルー)の項をご参照の上お好みのキャビネットを接続してください。

注意: CAB CLONEの標準インピーダンス負荷は8Ω/100Wです。頻繁に使用するアンプのスピーカーアウトプットの出力インピーダンスが4Ωか16Ωである場合は、それにマッチしたインピーダンス負荷のCAB CLONEをご購入下さい。インピーダンス負荷を正しく合わせることでベストなレスポンスを得ることができ、また、アンプのパワー管の寿命も延ばすことができます。

重要: THRU(スルー)ジャックにスピーカーを接続せずインターナルロードを使用する場合には、次のインピーダンスガイドラインに従ってください。

CAB CLONEのインピーダンスがアンプのスピーカーアウトプットより高いインピーダンス(より軽いインターナルロード)であれば**接続は可能**です。例: 8Ωのスピーカーアウトプット(出力トランスタップ)を16ΩのCAB CLONEに接続する場合/4Ωのスピーカーアウトプット(出力トランスタップ)を8ΩのCAB CLONEのINに接続する場合、などです。

CAB CLONEのインピーダンスがアンプのスピーカーアウトプットより低いインピーダンス(より重いインターナルロード)の場合は**絶対に使用しないで下さい**。例: 8Ωのスピーカーアウトプット(出力トランスタップ)を4ΩのCAB CLONEに接続する場合/16Ωのスピーカーアウトプット(出力トランスタップ)を8ΩのCAB CLONEに接続する場合、などです。これを行うと、本体が非常に熱くなり、パワー管も消耗しアンプの出力トランスが破損する可能性があります。

ご使用のアンプのスピーカーアウトプットのインピーダンスにマッチしたCAB CLONEを使用するようにしてください。

THRU (TO LIVE SPKR.CAB) このジャックにより、ライン出力に最適化されたバランスダイレクトアウトとスピーカーキャビネットを組み合わせて使用することができます。スイッチングタイプのジャックを使用しており、スピーカーケーブルが差し込まれることでインターナルロードが自動的にオフになります。この場合、アンプのスピーカーアウトプットにかかる負荷は、THRUジャックに接続されているスピーカーキャビネットのインピーダンスそのままとなります。

注意: スピーカーキャビネットがTHRUに接続されている場合、インターナルロード機能は自動的にオフになり、接続されているスピーカー(リアクティブロード)に切り替わります。それにより、EQカーブ(サウンド)とレスポンスに変化をもたらし、高域がより増幅されたり、アタックがよりダイナミックになることがあります。

注意: CAB CLONEから直接コンソールに接続した状態で、より広い範囲でモニタリングするために8ΩのMESAスピーカーキャビネットを追加する場合: まず、アンプの8ΩのスピーカーアウトプットからCAB CLONEのINに接続してください。次に、THRUから1台目の8Ωスピーカーキャビネットに接続して、2台目の8Ωスピーカーキャビネットを、1台目のスピーカーキャビネットのジャックプレートのPARALLEL OUTPUT(セカンドジャック)に接続してください。これにより、適切なインピーダンスマッチング(8Ω)、そして最適なサウンドとレスポンスを得ることができます。“合計/並列”負荷は、2台のキャビネットのインピーダンスの合計を2で割った値になりますので、もし、使用するキャビネットが8Ωでない場合はご注意ください(並列の場合、 $8\Omega+8\Omega=4\Omega$ となり、 $16\Omega+16\Omega=8\Omega$ 、等となります)。2台の4Ωのキャビネットを並列に接続することはお勧めいたしません。この場合負荷の合計が2Ωとなり、これはMESAのアンプ(及びMESA以外のほとんどのブランドのアンプ)に対応しないからです。

注意: もし、PARALLELジャックのついていない古い型のMESAキャビネット、あるいは、他社のスピーカーキャビネットを使用される場合は、“Y” ケーブルもしくは“パラレルボックス”を使って2つのキャビネットを接続して、CAB CLONEのTHRUジャックに接続してください。

BALANCED DIRECT OUT(バランスダイレクトアウト) このオス型XLRジャックは、標準のメス型3ピンXLRマイクケーブルに対応し、レコーディングまたはライブ用のコンソールやマイクプリアンプ、あるいはコンバーターなどにCAB CLONEを接続するためのインターフェースになります。シグナルのレベルの強さは、INジャックに接続されているアンプのマスターボリュームセッティングと、フロントパネルのD.I.レベルロータリーコントロールによって決まります。本ガイドのフロントパネルセクションのD.I.レベルコントロールの説明を参照の上、ご使用の状況に最適なレンジを決定してください。このジャックはバランスシグナルのため、長いケーブルを使用してもそれによりシグナルが劣化することはありません。

注意: バランスダイレクトアウトからコンソールやプリアンプなどに接続する前に、フロントパネルのD.I.レベルロータリーコントロールを最小値(MIC LEVEL -30dB)にし、接続する機器のインプットチャンネルを“ゼロアウト”することをお勧めいたします。これにより、コンソールのインプットステージやスピーカー、耳へのダメージを防ぎ、また不適切なシグナルレベルによってエンジニアや周りの人たちが驚かされることもありません。

注意: バランスダイレクトアウトのシグナルレベルは、アンプのマスターボリュームセッティングによって変わります。必要に応じてフロントパネルのD.I.レベルを調節してください。

IMPEDANCE DESIGNATION(インピーダンスの指定) XLRバランスダイレクトアウトジャックの下側の4Ω / 8Ω / 16Ωとプリントされた3つのボックスはインターナルロード回路のインピーダンス表示で、チェックがされているボックスの数字がそのCAB CLONEのインピーダンスになります。適切なローディング、トーンそしてレスポンスを得るために、アンプのスピーカーアウトプットと一致するCAB CLONEのINに接続してください(8Ωの場合は8ΩがチェックされたCAB CLONEのINに、4Ωの場合には4ΩがチェックされたCAB CLONEのINにご接続ください)。

注意: CAB CLONEの標準のインターナルロードインピーダンスは8Ω/100Wです。頻繁に使用するアンプのスピーカーアウトプットの出カインピーダンスが4Ωもしくは16Ωである場合は、インピーダンス負荷のマッチしたCAB CLONEをご購入下さい。インピーダンス負荷を正しくマッチさせることにより、ベストなレスポンスを得ることができ、パワー管の寿命も延ばすことができます。

LINE OUT (+4dB) この1/4”アウトプットは、アンプのスピーカーアウトプットシグナルをフィルターを通さずにそのまま出力します。コンソールやその他の機材に接続して、オルタナティブとして使用することができます。このシグナルは標準の+4dBアウトプットレベル固定で、フロントパネルのD.I.レベルロータリーコントロールによって調整することはできず、アンプのマスターボリューム(レベル)セッティングとパワーセクションの増幅度によって変化します。

注意: このLINE OUTジャックは、ステレオ(またはTRSバランスジャック)ではなく、標準のモノラル1/4”フォンジャックとなっておりますので、コンソールに接続する際にはモノラルフォンプラグをご使用ください。

HEADPHONES(ヘッドホン) これはCAB CLONEの機能の中でも非常に便利な機能で、インターナルロードでボリュームを吸収すると同時に、シミュレートされたアンプのサウンドをヘッドホンで楽しめるように最適化してくれる機能です。

この機能のおかげで、周りの人の邪魔をすることなく真夜中でもお気に入りのチューブアンプを最大限に楽しむことができますようになりました。周りの誰も気にすることなく、思いっきり音を出してみましょう。アンプのエフェクトループにエフェクターを接続すれば、ウォームなトーンに素晴らしい気分になり、時間の経つのも忘れてしまうでしょう。

もちろん、使用するヘッドホンのクオリティやその独自のEQによってアンプのサウンドのクオリティや個性も変わりますが、多くのポピュラーブランドのヘッドホンでテストした結果、そのサウンドはとて心置きよいものでした。ヘッドホンは、それぞれEQカーブや音質、とりわけ低域のレスポンス、また付け心地などにも違いがありますので、異なるブランドのヘッドホンをいくつか試してみることをお勧めします。

このヘッドホンジャックはスイッチタイプで、2つの機能を持っています。ヘッドホンドライバーの回路に接続すると同時にXLRバランスダイレクトアウトをオフにします。これら2つを同時に接続すると、インターナルロードのインピーダンスに影響を及ぼし、CAB CLONEのシミュレートされたスピーカーのサウンドが変わることがあります。

注意: ヘッドホンのボリュームレベルは、アンプのマスターボリュームによって決まります。フロントパネルのD.I.レベルは、ヘッドホンアウトジャックのボリュームレベルには影響しません。

我々はあなたがCAB CLONEの機能を楽しみ、またあなたの音楽にインスピレーションを与えギターサウンドの未来を広げるものとなることを望みます。またあなたのサウンドにとって、長年に渡って役に立つ大事な製品となることを祈ります。



ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: service.japan@gibson.com

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）